

## エネルギー価格上昇がCPIを押し上げ（8月の全国CPI）

エネルギー価格上昇により、8月の日本型コアCPIは前年比0.2%に伸びを高めた。しかし、米国型コアや、トレンド把握に有効な刈り込み平均は7月から変わらず、インフレ基調の強まりを示していない。9月はエネルギー価格下落で前年比0.1~0.2%、10~12月期はタバコなどの押し上げ寄与剥落で0.1%程度を見込む。均せばCPIは当面ゼロ近傍で一進一退の推移が続く見通しである。

8月の全国CPIは生鮮除く総合（日本型コア）の伸びが7月の前年比0.1%から8月0.2%へ高まった。食料およびエネルギーを除く総合（米国型コア）は前年比0.5%と、7月から変わらずであり、両者の差の一つであるエネルギーの押し上げ寄与拡大が日本型コアの前年比プラス幅拡大に寄与している。

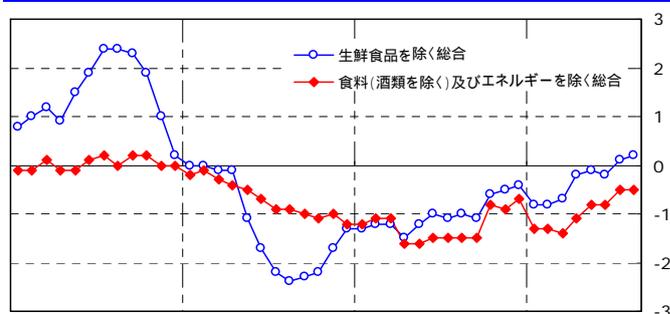
エネルギー価格は7月の前年比6.1%が8月は7.1%に伸びが高まった。発電燃料価格の上昇を受けて電気代（7月3.2% 8月3.4%）の上昇が続いたほか、一度は低下に転じたガソリン価格が7月、8月と再び上昇に転じている（5月9.0% 6月7.1% 7月10.2% 8月13.1%）。エネルギーのCPI全体に対する寄与度は7月0.48%Ptが8月は0.55%Ptに高まった。

他の品目では、テレビの価格下落ペース鈍化により教養娯楽耐久財の押し下げ寄与が縮小したが（7月前年比27.2% 8月25.5%、寄与度0.46%Pt 0.41%Pt）、航空運賃の上昇ペース鈍化（22.2% 2.8%、0.05%Pt 0.01%Pt）で相殺された。他に大きな動きはない。

エネルギー価格の先行きを見ると、9月も電力価格は上昇が続くものの、ガソリンなど石油製品価格は原油価格下落を反映して下落している<sup>1</sup>。そのため、9月にはエネルギー価格によるCPI押し上げ寄与は多少縮小すると見込まれる。なお、東京都区部の9月データなども踏まえると、現時点で9月の全国・日本型コアは前年比0.1~0.2%と予想される。

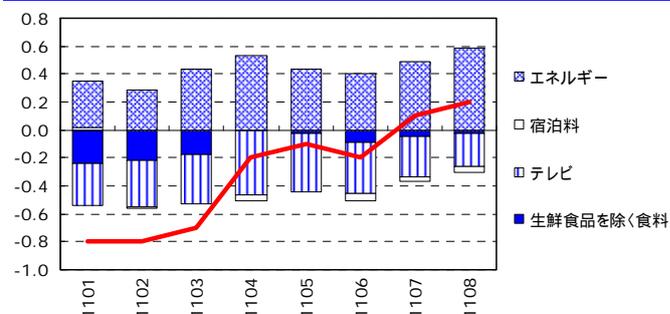
基調的なインフレ率を把握するために当社が試算

全国CPIの推移（前年比、%）



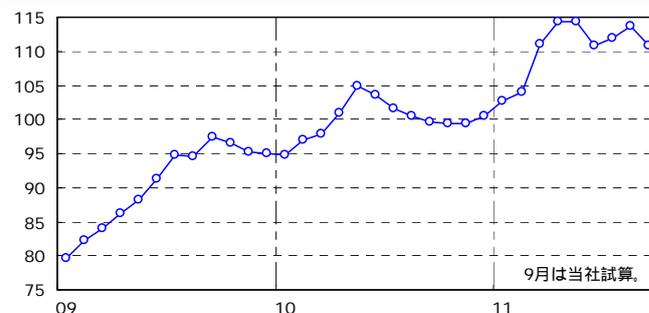
(出所) 総務省

日本型コアの寄与度分解（前年比、%）



(出所) 総務省

CPIベース・ガソリン価格の推移（2010年=100）



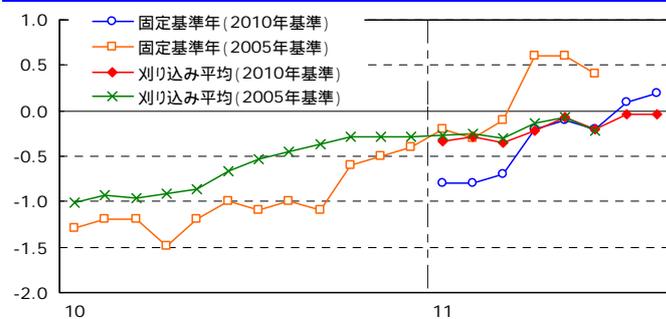
(出所) 総務省

<sup>1</sup> 全国平均のレギュラーガソリン価格は前月比2.4%下落。

している刈り込み平均 CPI は、8月が7月と変わらずの 0.03%となった。品目構成を見てもマイナス品目比率が 53.4%(7月 53.2%)、プラス品目比率は 36.5%(7月 36.3%)、横ばいが 10.2%(7月 10.5%)と大きな動きは見られない。従って、米国型コアや刈り込み平均の伸び変わらずが示すように、8月にかけて CPI の上昇基調が強まったとは判断されない。

総務省による伸び率計算が、ユーザー側からブラックボックス化したため、確たる予想はしにくい。7~9月期の前年比は 0.1%程度と見込まれる。なお、10月になると、昨年の値上げなどにより押し上げに寄与しているたばこ（前年比寄与度 0.19%Pt）と傷害保険料（同 0.14%Pt）の要因が剥落する、そのため 10~12 月期は前年比 0.1%からゼロ程度と予想している。  
CPI 日本型コアの前年比は、当面ゼロ近傍で推移する可能性が高い。

刈り込み平均の推移(前年比、%)



(出所)総務省資料より当社作成